

始



特117

78



特117

78

陸軍禮節司教範

朕陸軍禮式ヲ改定シ之カ施行ヲ命ス

御名
御璽

大正二年八月十五日

陸軍大臣 楠瀬幸彦

封軍大引 辭謝幸甚

大正二年八月十五日

贈 林 典 殿

知制軍 謝友

寄 林 典 殿

軍令陸第七號

陸 軍 禮 式



58M21332

特117
78

軍令與儀

對



78W51335

陸軍禮式

目次

第一編	總則	一
第二編	敬禮	五
第一章	通則	五
第二章	軍人ノ敬禮	一
第二節	最敬禮	一
第二節	室内ノ敬禮	三
第三節	室外ノ敬禮	八

第三章	軍隊ノ敬禮	二八
第一節	停止間ノ敬禮	二八
第二節	行進間ノ敬禮	三五
第三節	教練間ノ敬禮	三八
第四章	衛兵ノ敬禮	四一
第五章	歩哨ノ敬禮	四四
第二編	儀式	四六
第一章	通則	四七
第二章	儀仗	四八
第三章	堵列	五二

第四章	伺候式	五四
第五章	觀兵式	五五
第六章	禮砲式	五八
第七章	軍旗迎送式	六〇

附

陸軍禮式附錄

目次	附錄頁
第一章 觀兵式	一
第一節 通則	一

第三節 閱兵式……………四

第三節 分列式……………一〇

第二章 軍旗迎送式……………一七

目次終

陸軍禮式

第一編 總則

第一條 本令ハ陸軍軍人、軍隊ノ敬禮及陸軍ノ儀式ヲ定ム

第二條 本令中禮式ト稱スルハ敬禮及儀式ヲ總稱ス
 軍人ト稱スルハ陸軍ノ制服ヲ着用シタル將校、同相當官、准士官、下士及兵卒ヲ謂フ

將校ト稱スルハ特ニ規定アルモノヲ除クノ外將校相當官ヲ含ム

上官ト稱スルハ官等等級ノ上ナル軍人ヲ謂フ
團隊長ト稱スルハ獨立隊長及之ヨリ以上ノ軍隊ノ長ヲ
謂フ
軍隊ト稱スルハ引率者アル軍人ノ隊伍ヲ謂ヒ隊長ト稱
スルハ軍隊ヲ引率スル者ヲ謂フ
衛兵ト稱スルハ衛戍衛兵及風紀衛兵ヲ謂ヒ歩哨ト稱ス
ルハ野外勤務以外ノ歩哨ヲ謂フ
野戰砲兵ト稱スルハ野砲兵_{騎砲兵ヲ含ム以下同シ}及山砲兵ヲ謂フ
第三條 皇后、太皇太后及皇太后ニ對スル禮式ハ天皇
ニ對スル禮式ニ準ス

前項以外ノ皇族及天皇ノ御名代ニ對シテハ公式ノ場合
ニ限リ前項ニ準シ禮式ヲ行フ但シ特ニ規定アルモノハ
此ノ限ニ在ラス
第四條 外國ノ元首及皇族ニ對シテハ公式ノ場合ニ限
リ其ノ時時ノ命令ニ依リ前條ニ準シ禮式ヲ行フ
第五條 武官タル皇族ハ官等相當ノ禮式ニ從フ
第六條 將校ニシテ上級ノ職務ヲ執リ又ハ之ヲ代理ス
ル者ハ其ノ本官相當ノ禮式ニ從フ但シ上級ノ職務ヲ執
リタル場合ニ於テハ其ノ部下ニ限リ職務相當ノ禮式ヲ
行フ

第七條 准士官及見習士官見習主計、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官ヲ含ムハ將校ノ禮式ニ從フ

第八條 士官候補生及主計候補生見習士官、見習主計ヲ除クハ其ノ階級ニ應シ下士又ハ兵卒ノ禮式ニ其ノ他ノ陸軍諸生徒ハ

兵卒ノ禮式ニ從フ
上等兵及上等看護卒ニシテ下士勤務ニ在ル者ハ下士ノ禮式ニ從フ

第九條 重砲兵隊中繫駕スルモノハ野戰砲兵隊ノ禮式ニ徒歩スルモノハ歩兵隊ノ禮式ニ準ス

第十條 皇室ノ祭儀及禮典ニ際シ特ニ行フヘキ禮式及

近衛守衛隊ノ禮式ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第十一條 軍人海軍所屬ノ艦艇ニ乗組ミ又ハ公然之ヲ訪問スル場合ニ於ケル特種ノ禮式ハ海軍所定ノ禮式ニ依ル

第二編 敬禮

第一章 通則

第十二條 軍人ハ特ニ規定アル場合ヲ除ク外上官ニ對シテ敬禮ヲ行ヒ上官ハ之ニ答禮シ同級者ハ互ニ敬禮ヲ交換スヘシ

敬禮ヲ行フトキハ通常受禮者ノ答禮終ルヲ待チ舊姿勢ニ復スルモノトス上官ハ之ニ答禮シ同級者ハ互ニ答禮ス答禮ハ場合ニ依リ體ノ上部ヲ少シク前ニ傾ケ且注目スルコトヲ以テ舉手注目又ハ刀ノ禮ニ代ウルコトヲ得

第十三條 軍人廉アル場合ニ於テ「君カ代」ノ奏樂ヲ聞クトキハ其ノ間姿勢ヲ正スヘシ

第十四條 軍人職務上皇族又ハ上官ニ隨從スルトキハ通常敬禮ヲ行フコトナシ

第十五條 官等等級ノ識別ニ困難ナル場合ニ在リテハ先後ヲ論セス互ニ敬禮ヲ行フヘシ

第十六條 軍人單獨ノ敬禮ハ面識アル上官ニ對シテハ其ノ著服ノ如何ニ關セス之ヲ行フヲ禮トス

第十七條 海軍軍人、軍隊及和親國ノ陸海軍將校ニハ陸軍軍人、軍隊ニ對スルト同一ノ敬禮ヲ行フヘシ

第十八條 二人以上ノ上官ニ對スル敬禮ハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外軍隊ニ在リテハ最高級ノ人ニ對シテ之ヲ行ヒ軍人ニ在リテハ先ツ最高級ノ人ニ對シテ之ヲ行ヒ次ニ他ノ上官一同ニ對シテ之ヲ行フヘシ

前項ノ場合ニ於テハ最高級ノ人ノミ答禮スルヲ例トス職務上皇族又ハ上官ニ隨從スル軍人ニ對シテハ敬禮ヲ

行フコトナシ

第十九條 軍旗ハ天皇ニ對スルトキ及拜神ノ場合ヲ除クノ外敬禮ヲ行フコトナシ

旗手、軍旗衛兵及軍旗中隊ハ軍旗ノ敬禮ヲ行フ場合ヲ除クノ外敬禮ヲ行ハス

第二十條 天皇ニ對スル儀式及祭典ノ爲整列シアル軍隊ハ天皇ニ對スル場合ヲ除クノ外敬禮ヲ行フコトナシ

一般ノ觀兵式ニ整列シタル軍隊ハ天皇及觀閱者ニ對スル場合ヲ除クノ外敬禮ヲ行ハス

儀仗服務中ノ儀仗兵並會葬ノ儀仗兵ハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外敬禮ヲ行フコトナシ

但シ儀仗衛兵ハ歩哨ハ此ニ限ニ在ラス軍人、軍隊及衛兵ハ前三項ノ軍隊ニ對シテ敬禮ヲ行ハサルモノトス

第二十一條 軍人及軍隊行進間ノ敬禮ハ速歩乘馬ノトキハ常歩於テ行ヌモノトス但シ軍人ニシテ武器ヲ携持セサルトキハ歩調ヲ取ルコトナク敬禮スルモノトス

前項ノ者至急ノ用務ヲ帶フルトキハ其ノ旨ヲ告ケ乘馬ノトキハ常歩駈歩若ハ速歩ノ儘敬禮ヲ行フモ妨カシ

第二十二條 軍隊及衛兵停止間ニ於テ敬禮ヲ爲スニハ目迎目送ヲ行フヘシ目迎目送ハ捧銃、捧刀等ヲ爲ス場

目迎目送ヲ行フヘシ目迎目送ハ捧銃、捧刀等ヲ爲ス場

合ニハ其ノ操作ヲ終リタル後直ニ頭ヲ右(左)ニ向ケ受
禮者ノ眼又ハ敬禮スヘキモノニ注目シ立銃、肩刀等ノ
動令ニテ頭ヲ正面ニ復シ立銃、肩刀等ノ儘若ハ單ニ姿
勢ヲ正シテ敬禮ヲ行フ場合ニハ「頭右(左)」ノ號令ニ依
リ目迎目送ヲ爲シ「直レ」ノ號令ニテ頭ヲ正面ニ復スル
モノトス
位置ノ關係ニ依リ目迎目送ヲ爲ス能ハサルトキハ頭ヲ
敬禮ヲ受クヘキモノニ向ケ注目ヲ爲スヘシ
第二十三條 大隊以上騎兵ニ在リテハ聯隊以上ノ軍隊敬禮ハ停止間
ニ在リテハ大隊騎兵ニ在リテハ聯隊毎ニ行進間ニ在リテハ中隊毎

ニ之ヲ行フヲ例トス

第二十四條 軍隊及衛兵ノ敬禮ハ特ニ規定アル場合ヲ
除ク外夜間之ヲ行フコトナシ

第二章 軍人ノ敬禮

第一節 最敬禮

第二十五條 天皇ニ拜謁スルトキ室内ニ於テハ最敬禮
ヲ行フヘシ
最敬禮ハ不動ノ姿勢ヲ取リ先ツ天皇ニ注目シ次ニ體ノ
上部ヲ前約四十五度ニ傾ケ頭ヲ正クシ上體ノ方向ニ保

手帽ニ右手ニテ其ノ庇ヲ摘ミ之ヲ右股ニ接シテ提ケ帽
 ノ内部ヲ右股ニ對セシム刀ヲ佩スルトキハ柄ヲ後ニシ
 左手ニテ鑲部ヲ握ルモノトス
第二十六條 前條ノ最敬禮ハ玉座ヲ距ル式ト約六歩ノ
 所ニ於テ之ヲ行フモノトス但シ此ノ場合ニ於テハ先ツ
 御室ノ外ニ於テ敬禮シタル後御室ニ入リテ直ニ敬禮ヲ
 行ヒ更ニ進ミテ最敬禮ヲ爲シ最敬禮終リタルトキハ退
 歩シ御室ノ出口ニ於テ敬禮シ御室ヲ出テ更ニ敬禮ヲ行
 ヒタル後退去スベシ
 前項ノ敬禮ハ最敬禮ヲ除クノ外總テ體ノ上部ヲ前約十

五度ニ傾ケ頭ヲ正シク上體ノ方向ニ保チテ行フモノトス

第二十七條 賢所參拜其ノ他拜神ノトキハ拜禮ヲ行フ

拜禮ノ方法ハ神靈ニ對シ最敬禮ト同一ノ方法ヲ以テ行

第二十八條 室内ノ敬禮
 室内トハ居室、寢室、事務室及應接所等

ヲ謂ヒ衛兵所、廊下、炊事場及厩等ハ室外トス但シ行

幸、行啓アリタルトキニ限リ廊下モ亦室内ト看做ス
第二十九條 室内ノ敬禮ハ體ノ上部ヲ前約十五度ニ傾

ケ受禮者ノ眼又ハ敬禮スヘキモノニ注目スルノ外最敬
 禮ニ同シ
 室内ニ入ラムトスルトキハ室外ニ於テ脱帽スヘシ
 下士兵卒銃又ハ槍ヲ携フルトキハ前二項ニ依ラス室外
 ノ敬禮ヲ行フモノトス
 將校ニシテ下士兵卒ノ室内ニ入ルトキハ脱帽セサルモ
 妨ナシ此ノ場合ニハ室外ノ敬禮ヲ行フモノトス
 第三十條 參内及參殿ノ節ハ昇殿ノ際ヨリ脱帽スヘシ
 賢所參拜其ノ他祭典ニ參列スルトキハ賢所正門又ハ祭
 場ニ入ルトキヨリ脱帽スヘシ

第三十一條

上官ノ室内ニ入ルトキハ上官ニ面シ入口
 ニ於テ敬禮ヲ行フヘシ其ノ室ヲ去ルトキ亦同シ
 第三十二條 上官ヨリ書類其ノ他ノモノヲ受ケ又ハ上
 官ニ之ヲ呈セムトスルトキハ敬禮ヲ後適宜前進シ帽ヲ
 左脇ニ挟ミ右手ヲ以テ之ヲ受ケ又ハ呈シタル後舊位ニ
 復シ再ヒ敬禮ヲ行ヒ退去スヘシ但シ銃又ハ槍ヲ携フル
 トキハ左手ヲ以テ之ヲ受ケ又ハ呈ス若シ捧銃、捧槍ヲ爲
 スコト困難ナルトキハ立銃、立槍ノ儘敬禮スルコトヲ得
 前項ノ場合ニ於テ返簡若シ受領證ヲ受クヘキトキハ適
 宜ノ位置ニ退キ之ヲ待ツヘシ

上官ヨリ書類ヲ受ケ其ノ場ニ於テ披見ヲ要スルトキハ
左手ヲ副ヘテ披見スヘシ但シ銃又ハ槍ヲ携ヲルトキハ
之ヲ體ニ托シ右臂ヲ以テ之ヲ支ヘ騎銃ニ在リテハ銃身ヲ右
ニシ負革ヲ右臂ニ懸ク
右手ヲ副ヘテ披見スヘシ
上官ヨリ官記、位記、勳記、功記及辭令書、賞狀等ヲ
受ケル時キハ其ノ場ニ於テ披見スルヲ例トス
命令、訓示等ヲ受ケ又ハ報告ヲ爲サルトキ亦前
諸項ニ準ス
第三十三條 上官室内ニ來ルトキハ立チテ敬禮ヲ行ヒ
タル後各其ノ業務ニ服シ上官其ノ室ヲ去ルトキハ再ヒ

立チテ敬禮ヲ行フヘシ但シ上官ニ應答スル者ハ其ノ間
起立スルモノトス
下士兵卒ノ室内ニ將校來ルトキハ前項ニ拘ラス最初之
ヲ認メタル者「敬禮」ト呼ヒ其ノ室ニ在ル者皆其ノ場ニ
立チ敬禮ヲ行ヒ將校ノ許可アリタル後各其ノ業務ニ服
スヘシ但シ検査、點呼等ノ場合ニ在リテハ最高級ノ者
號令ヲ以テ一般ニ不動ノ姿勢ヲ取ラシメ敬禮ヲ行フヘ
シ
講堂等ニ於テ授業若ハ作業中ニ在リテハ教官若ハ監視
者ノミ敬禮ヲ行ヒ前二項ノ敬禮ヲ省略セシムルモ妨ナ

第三十四條 勅使ニ對シテハ上官ト同一ノ敬禮ヲ行フヘシ

第三十五條 廉アル宴會ニ於テ上官ト同席スルトキハ上官ヨリ先ニ椅子ニ倚リ又ハ食卓ニ就キ若ハ之ヲ離レ又ハ喫煙スルコトナキヲ禮トス
上官ヨリ廉アル宴會等ニ招カレ其ノ參著及退散ノトキハ帶刀(劔)シテ挨拶スルヲ例トス

第二節 室外ノ敬禮

第三十六條 室外ニ於テハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外舉手注目ノ敬禮ヲ行フヘシ但シ右手ヲ舉クルコト能ハサルトキハ其ノ儘受禮者ニ注目シ體力上部ヲ少シク前ニ傾クヘシ
舉手注目ノ禮ハ姿勢ヲ正シ右手ヲ舉ケ其ノ指ヲ接以テ伸ハシ食指ト中指トヲ帽ノ底ノ右側ニ當テ掌ヲ稍外方ニ向ケ肘ヲ肩ノ方向ニテ略其ノ高サニ齊クシ頭ヲ向ケテ受禮者ノ眼又ハ敬禮スヘキモノニ注目ス
第三十七條 將校拔刀ノ場合ニ於テ天皇又ハ軍旗ニ對シ敬禮ヲ行フトキ其ノ他特ニ規定アル場合ニハ刀ヲ禮

ヲ行ヒ其ノ他ノ場合ニ在リテハ肩刀ニテ姿勢ヲ正シ頭
 ヲ向ケテ受禮者ニ注目シ體ノ上部ヲ少シク前ニ傾クヘ
 シ但シ將校相當官ハ刀ノ禮ヲ行フコトナシ
 下士兵卒銃若ハ槍ヲ携ヘ又ハ拔刀シタル場合ニ於テ敬
 禮ヲ行フトキハ天皇又ハ軍旗ニ對シテハ著劍又ハ起劍
 捧銃輜重兵ニ在リテハ著劍モス捧刀又ハ捧槍乘馬ノトキハ立槍以下同シヲ爲シ目迎目
 送ヲ行ヒ土官ニ對シテハ行進間ニ在リテハ正規ノ歩法
 ヲ取り頭ヲ向ケテ受禮者ニ注目シ停止間ニ在リテハ將
 校ニ對シテハ捧銃、捧刀又ハ捧槍ヲ爲シ目迎目送ヲ行
 ヒ下士兵卒ニ對シテハ姿勢ヲ正シ立銃、肩刀又ハ立槍

ヲ爲シ頭ヲ向ケテ受禮者ニ注目シ體ノ上部ヲ少シク前
 ニ傾クヘシ
 下士兵卒喇叭ヲ手ニスルトキハ其ノ持方ヲ變スルコト
 ナク銃、刀又ハ槍ニ關スル動作ヲ除外前項ニ準シ敬
 禮スルモノトス
 第三十八條 野外ニ於テ天皇ニ奏上スルトキハ玉座ヲ
 距ル約六歩ノ所ニ至リ敬禮ハ適宜ノ距離ニ進ミテ奏上
 シ奏上終リタルトキハ玉座ヲ距ル約六歩ノ所迄退歩シ
 テ敬禮ヲ行ヒ退去スヘシ
 第三十九條 途上ニ於テ行幸ニ遇フトキハ前驅ハ稍前

ヨリ道路ノ一側ニ於テ車駕ノ通路ニ面シテ停止シ乘馬者ハ
其ノ儘乗車者ハ下車車駕約八步前ニ近ツクトキ敬禮ヲ行ヒ約八步
 過去ル迄其ノ姿勢ヲ保ツヘシ
 汽車、汽船等ニテ通御ノ際亦前項ニ準シ敬禮ヲ行フヘシ
 第三十八條 禮法ニ於テ天皇ニ奏上スルハ王璽モ
 第四十條 行進間ニ於テ軍旗上覆ヲ附セサルトキ以下同シ若ハ上官ニ
 行遇ヒ又ハ其ノ傍ヲ通過スルトキハ將校在リテハ其
 ノ儘敬禮ヲ行ヒ下士兵卒ニ在リテハ軍旗若ハ所屬團隊
 長獨立隊内ニ於ケル大隊長、中隊長並教導(生徒)隊ヲ有スル學長、
 校長タル將官、佐官及教導(生徒)隊長、同隊中隊長ヲ含ムニ對
 シテハ之ニ面シテ停止シ其ノ他ノ上官ニ對シテハ行進

ノ儘頭ヲ受禮者ノ方ニ向ケテ敬禮ヲ行フヘシ
 前項々團隊長ト他ノ上官ト同行スル場合ニハ下士兵卒
 ハ停止シ第十八條ニ準シテ敬禮ヲ行フヘシ
 第四十一條 停止間ニ於テ上官其ノ傍ヲ通過スルトキ
 ハ之ニ面シテ敬禮ヲ行フヘシ
 上官ノ許ニ至ルトキハ適宜ノ距離ニ於テ之ニ面シテ停
 止シ敬禮ヲ行フヘシ
 第四十二條 上官ノ後方ヨリ進ミテ之ヲ通過スルキムト
 スルトキハ其ノ旨ヲ告ケテ通過スヘシ
 第四十三條 途上ニ於テ勅使ニ遇フトキハ行進ノ儘敬

禮ヲ行スベシ 懸土ニ於テ儀式ニ懸ケルハ官職ノ
 第四十四條 其途上ニ於テ軍人ノ葬儀ニ遇フトキハ官職
 ノ如何ニ問ハズ其ノ入柩ニ對シ敬禮ヲ行スベシ 懸土ニ
 第四十五條 上官ノ引率スル軍隊ニ行遇ヒ又ハ其ノ傍
 ヲ通過スルトキハ隊長ニ敬禮ヲ行スベシ 懸土ニ面々
 第四十六條 軍隊ヨリ敬禮ヲ受ケタルトキハ其ノ隊長
 ニ答禮スルモノトス 懸土ニ上官其ノ對テ敬禮スルハ
 第四十七條 室外ニ於テ上官ノ窓牖内ニ在ルヲ認メタ
 ルトキハ敬禮ヲ行フベシ 室内ニ於テ窓牖外ニ在ル上官
 ナ認メタルトキ亦同シ 懸土ニ上官其ノ對テ敬禮スルハ

第四十八條 一、二等卒及之ト同級ノ者ハ步哨ニ對シ
 敬禮ヲ行フベシ 懸土ニ上官其ノ對テ敬禮スルハ
 第四十九條 汽車、電車、馬車、人力車及船等ニ乘リ
 タルトキ上官ニ行遇ヒ若ハ其ノ傍ヲ通過シ又ハ船、車
 内ニテ上官ニ遇フトキハ乗座ノ儘姿勢ヲ正シ敬禮スル
 モ妨ナシ但シ船、車内ニ於テハ成ルヘク上官ニ其ノ席
 ヲ讓ルヲ禮トス 懸土ニ上官其ノ對テ敬禮スルハ
 船、車内ニ於テ敬禮ヲ行フニ危險ヲ感スルトキ又ハ自
 轉車ニ乘リタルトキハ單ニ注目ヲ以テ敬禮ニ代ウルコ
 トヲ得 懸土ニ上官其ノ對テ敬禮スルハ

船、車等ノ乗レル上官ニ行遇ヒ又ハ其ノ傍ヲ通過スル
トキハ之ニ敬禮ヲ行フヘシ

第五十條 室外ニ於テ上官ヨリ書類其ノ他ノモノヲ受

ケ又ハ呈セムトスルトキハ室外ノ敬禮ヲ行フノ外其ノ

動作ハ室内ニ於ケルモノニ同シ

上官ヨリ命令、訓示等ヲ受ケ又ハ報告ヲ爲サムトスル

トキ亦前項ニ準ス

前二項ノ場合ニ於テ乗馬者徒歩ノ上官ニ對スルトキハ

野外勤務ニ於ケル傳令ノ場合ヲ除クノ外ハ敬禮ヲ行ヒ

タル後下馬スヘシ但シ上官ノ許可アリタルトキハ此ノ

限ニ在ラス

第五十一條 上官ト同行スルトキハ上官ノ行進ヲ妨ケ

サル如ク其ノ左側二人以上ナルトキハ兩側ニ分レト又ハ後方ニ就キ上官ノ

步調ニ合ハスヲ禮トス但シ誘導者ハ此ノ限ニ在ラス

第五十二條 下士兵卒集團シ又ハ同行スルトキ上官ニ

行遇ヒ又ハ上官其ノ傍ヲ通過スルトキ其ノ他敬禮ヲ行

フヘキ場合ニ於テハ最初之ヲ認メタル者要スレハ「敬

禮」ト呼ヒ注意スヘシ

第五十三條 演習中上官ニ行遇ヒ又ハ其ノ傍ヲ通過ス

ルトキハ敬禮ヲ行フコトナク單ニ其ノ旨ヲ告知スヘシ

第二章 軍隊ノ敬禮

第一節 停止間ノ敬禮

第五十四條

天皇ニ對シテハ車駕ノ通路ニ正面騎兵、野戰砲兵

輜重兵ニシテ途上縱隊ナルトキ已ムヲ得サレハ其ノ儘以下同シシテ隊列ヲ正シ武装軍裝若ハ略裝ニテ武器ヲ携帯スルモシタルトキハ步兵、工兵ハ著劍捧銃ヲ行ヒ

騎兵ハ起劍、捧銃、捧刀、捧槍若ハ立槍シ野戰砲兵ハ姿勢ヲ正シ輜重兵ハ捧銃若ハ捧刀シ駄馬又ハ車輛ヲ牽

ク部隊ハ姿勢ヲ正シ當該部隊ニ屬スル將校ハ刀ノ禮ヲ爲シ曹長ハ捧刀シ軍旗亦敬禮ヲ行ヒ喇叭「君カ代」ヲ吹奏スヘシ

前項ノ敬禮ハ車駕隊列ヨリ約三十歩ノ所ニ來ルトキ之ヲ始メ隊列ヲ去ルコト約十五歩ノ所ニ至ルトキ之ヲ止ム

汽車、汽船等ニテ通御ノ際亦前項ニ準シ敬禮ヲ行フヘシ
第五十五條 將官ニ對シテハ武装セル軍隊ニ在リテハ之ニ正面シ隊列ヲ正シ敬禮ヲ行ヒ隊長將校ナルトキハ刀ノ禮ヲ爲シ下士兵卒ナルトキハ捧銃、捧刀、捧槍若

ハ立槍ヲ爲シ目迎目送ヲ行ヒ左ノ區分ニ從ヒ喇叭ウツ海
 行カハレヲ吹奏スヘシ
 第二十元帥、陸軍大臣、參謀總長、教育總監、陸軍大
 將及特命檢閱使タル將官
 二、陸軍中將
 三、陸軍少將
 前項ノ敬禮ハ受禮者隊列ヨリ約八歩ノ所ニ來ルトキ之
 ヲ始メ隊列ヨリ約八歩過キ去ル迄其ノ姿勢ヲ保ツヘシ
 受禮者突然隊ノ左翼ヨリ來ルトキノ如キハ中隊各箇ニ
 敬禮ヲ行フモ妨ナシ又喇叭ハ受禮者ノ職名ヲ知ルコト

能ハサルトキハ官等ニ應スル回数ヲ吹奏シ若シ官等ヲ
 モ識別シ得サルトキハ單ニ一回吹奏スルモノトス
 佐尉官ニ對シテハ喇叭ヲ吹奏セサル外前諸項ニ同シ
 第五十六條 勅使ニ對シテハ武裝シタル軍隊ニ在リテ
 ハ之ニ正面シテ隊列ヲ正シ敬禮ヲ行ヒ隊長將校ナルト
 キハ刀ノ禮ヲ爲シ下士兵卒ナルトキハ捧銃、捧刀、捧
 槍若ハ立槍シ目迎目送ヲ行ヒ敬禮スルモノトス
 第五十七條 他ノ軍隊ニ對シテハ隊列ヲ正シ隊長將校
 ナルトキハ刀ノ禮ヲ行ヒ下士兵卒ナルトキハ第三十七

條ト同一ノ方法ヲ以テ互ニ敬禮シ喇叭「皇御國」一回
ヲ吹奏スルモノトス
軍隊相互ノ敬禮ハ其ノ隊長ノ階級下ナルモノヨリ先ツ
之ヲ行ヒ同級ナルトキハ先後ヲ論セス之ヲ行フモノト
ス

第五十八條 軍旗ヲ有スル軍隊ニ對シテハ隊列ヲ正シ
テ敬禮シ隊長ハ軍旗ニ對シ第三十七條ノ敬禮ヲ行ヒ喇
叭「足曳」一回ヲ吹奏シ軍旗ヲ有スル軍隊ハ之ニ對シ
答禮シ喇叭「皇御國」一回ヲ吹奏スルモノトス
第五十九條 軍隊ニシテ武裝セサル場合ノ敬禮ハ銃、

刀又ハ槍ニ關スル動作ヲ除クノ外武裝シタル場合ノ敬
禮ニ準ス但シ隊長ハ舉手注目ノ禮ヲ行ヒ喇叭ヲ吹奏ス
ルコトナシ

武裝シタル軍隊ニシテ武裝セサル軍隊ニ對スルトキ亦
前項ニ同シ但シ隊長ハ第五十七條ト同一ノ敬禮ヲ行フ
將校相官及各部下士兵卒ノ引率スル軍隊ノ敬禮ハ武裝
セサル軍隊ノ敬禮ニ同シ

第六十條 軍隊ノ軍人ニ對スル敬禮ハ其ノ隊長ヨリ上
級ノ者ニ非サレハ之ヲ行フコトナシ
將校相當官、各部下士及其ノ引率スル軍隊ニ對シテハ

軍隊ノ敬禮ヲ行ハス隊長ノミ敬禮若ハ答禮スルモノトス
第六十一條 將校ノ引率スル軍隊ハ下士兵卒ノ引率ス
ル軍隊ニ對シテ軍隊ノ敬禮ヲ行ハス隊長ノミ答禮スル
モノトス

第六十二條 儀仗隊ヲ附シタル軍人ノ葬儀ニ遇フトキ
ハ官職ノ如何ヲ問ハス隊長ハ柩ニ對シ敬禮スルモノト
ス

第六十三條 軍隊拜神ノ禮ハ神前ニ整列シ天皇ニ對ス
ルト同一ノ敬禮ヲ行フ但シ喇叭ハ國ノ鎮メレ一回ヲ
吹奏スルモノトス

第六十四條 軍隊行軍又ハ教練間隊列ヲ解キ一地ニ休
憩シアルトキハ敬禮ヲ行ハサルヲ例トス其ノ他ノ場合
ニ於テ隊列ヲ離レタル軍人ハ單獨ノ敬禮ヲ行フヘシ

第二節 行進間ノ敬禮

第六十五條 天皇ニ對シテハ先驅ノ稍前ヨリ道路ノ一
側ニ沿フテ停止シ第五十四條ニ準シ敬禮ヲ行ヒ鹵簿隊
列ヲ過キ去リタル後再ヒ行進ヲ始ムヘシ
汽車、汽船等ニテ通御ノ際亦前項ニ準シ敬禮ヲ行フヘ
シ

第六十六條 軍旗、上官又ハ他ノ軍隊ニ對シテハ行進ヲ停止セス「頭右(左)」ノ號令ニテ軍旗、受禮者又ハ隊長ニ注目シ隊長將校ナルトキハ刀ノ禮ヲ行ヒ下士兵卒ナルトキハ頭ヲ向ケテ受禮者ニ注目シ前節ノ規定ニ準シ喇叭ヲ吹奏スヘシ但シ將官ニ對スル喇叭ハ「海行カハ」一回トス
勅使ニ對シテハ喇叭ヲ吹奏セサル外前項ニ準シ敬禮ヲ行フヘシ
前二項ノ敬禮ハ其ノ隊ノ先頭受禮者ヲ距ルコト約八歩ノ所ヨリ始メ隊列ヲ過キ去リタル後「直レ」ノ號令ニテ

頭ヲ正面ニ復セシムヘシ

第六十七條 軍隊整列シタル衛兵ノ前ヲ通過スルトキハ他ノ軍隊ニ對スルト同一ノ敬禮ヲ行フヘシ但シ將校ノ引率スル軍隊ハ下士以下ノ司令タル衛兵ニ對シ軍隊ノ敬禮ヲ行ハス隊長ノミ答禮スヘシ

第六十八條 第五十八條乃至第六十二條ハ軍隊行進間ノ敬禮ニ準用ス

第六十九條 途步行進間徒歩兵ニ在リテハ「休メ」ノ號令アリタル場合ニ在リテハ天皇ニ對スル場合ヲ除クノ外軍隊ノ敬禮ヲ行ハス隊長ノミ敬禮ヲ行フ但シ軍旗、軍隊及高貴ノ人

ニ遇フトキハ成ルヘク唱歌、喫煙等ヲ止メ、靜肅ニ行進スヘシ
軍隊時宜ニ依リ市街ニ於テ途步行進中敬禮ヲ爲サムトスルトキハ先ツ速步行進徒歩兵ニ在リテハ「速歩」其ノ他ニ在リテハ「氣ヲ付ケ」ノ號令アリタル場合ニ復シテ之ヲ行フヘシ

第二節 教練間ノ敬禮

第七十條 天皇練兵場ニ親臨アリタルトキハ其ノ場ニ在ル最高級ノ將校ハ喇叭手ヲシテ「氣ヲ付ケ」ヲ吹奏セシメ車駕ヲ奉迎シ各隊教練ヲ止メ其ノ位置ニ於テ敬

禮ヲ行ヒ各團隊毎ニ其ノ最高級ノ將校ハ駈歩ニテ車駕ノ許ニ至リ敬禮ヲ行ヒ教練ノ次第ヲ奏上シ勅命アルカ又ハ車駕練兵場ヲ去ルニ非サレハ教練ヲ始ムヘカラス車駕練兵場ヲ去ルニ際シテハ軍隊ハ其ノ位置ニ於テ敬禮ヲ行ヒ其ノ場ニ在ル最高級ノ將校ハ車駕ヲ奉送スヘシ

第七十一條 元帥、陸軍大臣、參謀總長、教育總監、陸軍大將及特命檢閱使タル將官練兵場ニ臨場シタルトキハ最初ニ之ヲ認メタル隊長先ツ喇叭手ヲシテ「氣ヲ付ケ」ヲ吹奏セシメ各隊教練ヲ止メ其ノ位置ニ於テ敬

禮ヲ行ヒ各團隊毎ニ其ノ最高級ノ將校ハ駆歩ニテ臨場者ノ許ニ至リ敬禮ヲ行ヒ抜刀シアルトキハ刀ノ禮ヲ行フ教練ノ次第ヲ陳ヘ別命ナキトキハ再ヒ教練ヲ始ムヘシ受禮者練兵場ヲ去ルニ際シテハ軍隊ハ其ノ位置ニ於テ敬禮ヲ行フヘシ

臺灣、朝鮮及滿洲ニ在ル軍隊ノ總督、都督及軍司令官

ニ對スル場合亦前三項ニ同シ

團隊長教導(生徒)隊ヲ有スル學校長タル將官、佐官ヲ含ム練兵場ニ來ルトキハ其ノ

部下軍隊ニ限リ前諸項ニ準シ敬禮ヲ行ヒ教練ノ次第ヲ

報告スヘシ但シ「氣ヲ付ケ」ノ喇叭ヲ吹奏スルコトナシ

第七十二條 軍隊練兵場ニ於テ教練間ハ前二條ノ場合ヲ除クノ外敬禮ヲ行フコトナシ

第七十三條 軍隊ハ演習場、射擊場及作業場等ニ於テモ成ルヘク前諸條ニ準シテ敬禮ヲ行フヘシ

第七十四條 野外ニ於テ演習實施中ハ通常敬禮ヲ行フコトナシ

第四章 衛兵ノ敬禮

第七十五條 衛兵ハ天皇、皇族及左ニ列記スルモノニ

對シテハ門外又ハ衛舍前ニ整列シ銃又ハ槍ヲ執リ野戰砲兵

ハ不動ノ姿勢ヲ取ル以下同シ 敬禮ヲ行フヘシ但シ天皇ヲ除クノ外ハ其ノ所在ノ門ヲ出入スルトキニ限ル

一、軍旗

二、將校ノ引率スル武装シタル軍隊

三、元帥、陸軍大臣、參謀總長、教育總監、陸軍大

將特命檢閱使タル將官

四、衛戍司令官

東京衛戍總督ヲ含ム以下同シ

及團隊長

教導(生徒)隊ナ有スル學校長ヲ

臺灣、朝鮮及滿洲ニ在ル軍隊ハ衛兵ハ總督、都督及軍司令官ニ對シテハ前項第三號ニ掲クル者ニ對スルト同

一ノ敬禮ヲ行フヘシ

衛戍司令官ニ對シテハ其ノ衛戍地ノ衛戍衛兵團隊長ニ

對シテハ其ノ部下團隊ノ風紀衛兵ノミ敬禮スルモノト

ス

第七十六條 前條衛兵ノ敬禮ハ軍隊停止間ノ敬禮ニ同

シ

第七十七條 衛兵司令ヨリ上官タル將校其ノ所在ノ門

ヲ出入スルトキハ衛兵中最初ニ之ヲ認メタル者「敬禮」

ト呼ヒ現在スル者其ノ場ニ立チテ姿勢ヲ正シ衛兵司令

ハ其ノ將校ニ對シ敬禮ヲ行フヘシ

第五章 步哨ノ敬禮

第七十八條

步哨ハ天皇、皇族及左ニ列記スルモノニ

對シ敬禮ヲ行フヘシ

一、軍旗

二、軍隊

三、將校

四、下士、上等兵及之ト同級ノ者

第七十九條

天皇、皇族、軍旗及將校ニ對シテハ著劍又

ハ起劍捧銃

著劍又ハ起劍シテアラサルトキハ將校ニ對シテハ其ノ能之ヲ行ヒ又輜重兵ニ在リテハ著劍セス捧銃ハ

禮ヲ行ヒ目迎目送ヲ爲シ下士、上等兵及之ト同級ノ者

ニ對シテハ立銃、立槍ノ儘姿勢ヲ正シ頭ヲ敬禮ヲ受ク

ヘキモノノ方ニ向ケ之ニ注目シ體ノ上部ヲ少シク前ニ

傾ケ軍隊ニ對シテハ姿勢ヲ正シ其ノ隊長ニ對シテ敬禮

ヲ行フヘシ

第八十條

步哨ハ夜間ニ在リテモ敬禮ヲ行フモノタル

コトヲ識別シタルトキハ敬禮スヘシ

第八十一條

步哨敬禮ヲ行フニハ通常其ノ定位置ニ立

チ

哨舎内ニ在ルトキハ之レヨリ出ツヘシ敬禮ヲ受クヘキモノ約八步前ニ來ル

トキ之ヲ行ヒ約八步過去ル迄其ノ姿勢ヲ保ツヘシ但シ

動哨ニ在リテハ其ノ位置ニ於テ敬禮ヲ行フモ妨ナシ

複哨ハ同時ニ敬禮ヲ行フヘシ

第八十二條 步哨ニシテ兵卒ヨリ敬禮ヲ受ケタルトキ

ハ立銃又ハ立槍ノ儘姿勢ヲ正シ頭ヲ向ケテ注目シ體ノ

上部ヲ少シク前ニ傾ケテ答禮スヘシ

第八十三條 野戰砲兵ノ步哨ハ舉手注目ノ敬禮ヲ行フ

ヘシ

第八十四條 步哨ハ職務執行ノ爲已ムヲ得サル場合ニ

在リテハ敬禮ヲ行ハサルモ妨ナシ

第二編 儀式

第二章 通則

第八十五條 本令ニ於テ儀式ト稱スルモノ左ノ如シ

第一、儀杖 本令賦官以テハ刺軍ノ前友ニ關シモハ限

外ニ軍塔列ノ前友ニ關シモ賦官ノ前友ナシ

第二、伺候式 隊中ノ深又ハ隊ノ禮儀ヲ司ル者ハ限

外ニ觀兵式及隊令官ノ侍立ヲ命ズルモノナシ

第三、禮砲式 禮砲ヲ發スルニ關シモハ隊令官ノ命ニテ

第六、軍旗迎送式 軍旗ヲ迎送スルニ關シモハ隊令官ノ命ニテ

前項第一號乃至第五號ノ儀式ハ天皇ハ皇族及將官ノ外

特ニ命令アリタル場合ニ於テ高貴ノ人ニ對シ之ヲ行ヌ
但シ受禮者ハ儀式ヲ辭スルコトヲ得

第八十六條 軍旗迎送式ヲ除ク 儀式ニ關シテハ特ニ規定アルモノ
ヲ除ク外衛戍司令官之カ執行ヲ命スルモノトス

第八十七條 召集中ノ者又ハ現ニ勤務ニ服スル者ノ外
在郷軍人ニハ儀式ニ關スル規定ヲ適用セス

第八十八條 本令規定以外ノ陸軍ノ儀式ニ關シテハ別
ニ定ムル所ニ依ルニ依リテ辨ズルハモテ式ノ成

第三章 儀仗

第八十九條 天皇、皇族及將官衛戍地著發ノトキハ儀
仗兵ヲ供フ

第九十條 儀仗兵ヲ分チテ二トス
一、儀仗隊
二、儀仗衛兵

儀仗隊ハ途上ヲ護衛ニ任シ儀仗衛兵ハ行在所又ハ旅館
ノ護衛ニ任スルモシテ此ノ外ニ他ノ任務アリテハ得ズ

第九十一條 軍儀仗隊ヲ供フルハ左ニ列記スル場合以外
特ニ命令アルヲ限ル

一、衛戍地ニ行幸、行啓又ハ通御アリテ其ノ地著御

並儀仗ヲ受クル人ヨリ上級者ニ對シ敬禮ヲ行フヘシ

第三章 堵列

第九十八條 天皇、皇族及將官衛戍地著發シトキ軍隊ハ堵列シテ迎送ヲ爲スモトス
第九十九條 堵列ヲ行フ場合ハ儀仗隊ヲ供ケル場合ニ同シ但シ夜間ハ之ヲ行ハス
第一百條 堵列スヘキ軍隊ノ兵數ハ附表ニ依ル
第一百一條 堵列ノ軍隊ハ波止場、停車場又ハ市街入口ト行在所又ハ旅館トノ間ニ於テ道路ノ一側又ハ兩側

ニ整列ス但シ隊列ハ順序ノ受禮者ノ來ルヘキ方ヲ上トス天皇汽車、汽船等ニテ通御ノトキ亦前項ニ準ス
第一百二條 堵列ノ軍隊ハ受禮者其ノ場ニ來ルトキ軍隊ノ敬禮ヲ行フヘシ
第一百三條 天皇著御入トキ師團長、衛戍司令官、憲兵司令官、憲兵隊長及儀仗、堵列並禮砲式ニ加ハラセラル上長官以上ニシテ乘馬ヲ有スル者ハ波止場、停車場又ハ市街ノ入口ニ奉迎ノ行在所迄陪從ス其ノ發御ノトキ亦之ニ準ス
天皇著御又ハ發御ノトキ該地所在ノ將校中儀仗、堵列

又ハ禮砲式ニ加ハル者及前項ニ依リ陪從中斷者ヲ除ク
ノ外ハ適宜ノ地ニ整列シテ奉迎又ハ奉送ヲ爲スヘシ

第四章 伺候式

第四百四條 天皇皇族及將官衛戍地著發入トキハ該地
所居之將校ハ行在所又ハ旅館ニ伺候スルモトス
第四百五條 伺候式ヲ行フ場合ハ儀仗隊ヲ供フル場合ニ
同シ
第四百六條 軍伺候スヘキ將校ハ範圍ニ附表ニ依ル
第四百七條 伺候式ハ受禮者發著前前後二十四時間以内

ニ於テ時ヲ定メ之ヲ行フモトス

第四百八條 伺候式ニハ拜謁又ハ面謁ヲ爲ス例トス

拜謁又ハ面謁ヲ爲ストキハ敬禮ヲ行ハ後直ニ退去ス
ルモノトス

時宜ニ依リ拜謁ヲ賜ラス又ハ受禮者面謁ヲ辭スルトキ
ハ伺候者ハ官爵氏名ヲ帳簿ニ記スルカ又ハ官爵氏名ヲ

記シタル名刺ヲ呈スヘシ

第五章 觀兵式

第四百九條 觀兵式ハ天長節及陸軍始其外他特ニ規定ア

ルカ又ハ特ニ命令アルトキニ限り之ヲ行カザルヲ以テス
第一百十條 觀兵式ヲ分チテ閱兵式及分列式トス
第一百十一條 觀兵式ハ天皇、皇族及左ニ列記スル者ニ
 對シテ行ハルベシ

元帥、陸軍大臣、參謀總長、教育總監、總督、
 都督、軍司令官、陸軍大將及特命檢閱使タル將官

三、衛戍司令官タル將官及軍隊ノ長タル將官
第一百十二條 天皇、皇族並前條第一號ノ者ニ對シテ觀
 兵式ヲ行フトキハ其ノ地高級團隊長諸兵ノ指揮ヲ爲ス
 べシ但シ師團以上ヲ合シテ之ヲ行フトキハ特ニ諸兵指

揮官ヲ定ムルモノトス

前條第二號ノ者ニ對シテハ觀閱者ノ次級者タル團隊長
 又ハ隊附將校諸兵ノ指揮ヲ爲スヘシ

第一百十三條 天長節祝日及陸軍始ニ於ケル觀兵式ハ各
 衛戍地ニ於テ之ヲ行ヒ天皇ニ對スルモノノ外通常其ノ
 地衛戍司令官タル將官ニ對シテ行フモノトス但シ將官
 ノ在ラサル衛戍地ノ軍隊ニ於テハ前條第二項ニ準シ分
 列式ノミヲ行フヘシ

第一百十四條 天皇ニ對シ觀兵式ヲ行フトキ並天長節祝
 日及陸軍始ニ於ケル觀兵式ニハ當該地所在ノ將校悉ク

出場スヘシ

第百十五條 觀兵式ニ關スル細部ノ規定ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第六章 禮砲式

第百十六條 禮砲式ハ敬禮又ハ表祝ノ爲之ヲ行フモノトス

第百十七條 禮砲式ヲ行フハ紀元節、天長節祝日及左

ニ列記スル場合ノ外特ニ命令アルトキニ限ル
一、衛戍地ニ行幸、行啓又ハ通御アリテ其ノ地著御

及發御ノトキ

二、元帥、陸軍大臣、參謀總長、教育總監、總督、

都督、軍司令官、陸軍大將及特命檢閱使タル將官

公務ヲ行フヘキ衛戍地ニ著發ノトキ

三、師團長初テ部下軍隊ノ衛戍地ニ著シ又ハ轉職等

ノ爲其ノ地ヲ發スルトキ

前項各號ノ場合ニ於ケル禮砲式ハ野戰砲兵其ノ地ニ駐

屯スルトキニ限リ之ヲ施行スルモノトス

第百十八條 發射スヘキ禮砲ノ數ハ附表ニ依ル

第百十九條 禮砲式ハ晝間ニ非サレハ之ヲ行フコトナシ

第二百十條 紀元節及天長節祝日其ノ他臨時ノ祝日ニ於テスル禮砲式ハ特ニ命令アル場合ヲ除クノ外各野戰砲兵隊駐屯ノ衛戍地ニ於テ當日正午ニ行フモノトス

第二百十一條 同一衛戍地ニ數箇ノ野戰砲兵隊集團シアル場合ニハ衛戍司令官禮砲式ヲ行フヘキ砲兵隊ヲ指定スヘシ

第二百十二條 重砲兵隊ハ特ニ命令アル場合ヲ除クノ外禮砲式ヲ行フコトナシ

第七章 軍旗迎送式

第二百十三條 軍旗其ノ安置ノ場所ヲ出入スルトキハ

之ニ對シテ迎送式ヲ行フ

第二百十四條 軍旗ノ迎送ニハ軍旗中隊ヲ用ウ

軍旗中隊ハ歩兵ニ在リテハ一中隊ト一大隊分ノ喇叭手騎兵ニ在リテハ中隊長ノ指揮スル半中隊ト二中隊分ノ喇叭手トヲ以テ之ヲ編成ス

第二百十五條 軍旗ヲ誘導スルニハ中(少)尉一人及護衛下士二人ヲ用ウ

第二百十六條 行軍中宿營地ニ於テハ軍旗迎送式ヲ行ハス旗手及護衛下士ノ外將校ノ率ユル一分隊ヲ以テ誘導スルヲ常トス

第二百二十七條 軍旗迎送式ニ關スル細部ノ規定ハ陸軍大臣之ヲ定ム

陸軍大臣は、軍旗迎送式ニ關スル細部ノ規定ハ、陸軍大臣之ヲ定ム。此ノ規定ハ、陸軍大臣之ヲ定ム。此ノ規定ハ、陸軍大臣之ヲ定ム。

陸軍第三十六條

陸軍	中(少)將	大將	中將	少將	大佐	中佐	少佐	中尉	少尉	中士	少士	中士	少士
陸軍	中(少)將	大將	中將	少將	大佐	中佐	少佐	中尉	少尉	中士	少士	中士	少士
陸軍	中(少)將	大將	中將	少將	大佐	中佐	少佐	中尉	少尉	中士	少士	中士	少士
陸軍	中(少)將	大將	中將	少將	大佐	中佐	少佐	中尉	少尉	中士	少士	中士	少士

天皇 陸軍大臣 楠瀬幸彦	陸軍少將 藤原 君	陸軍少將 藤原 君	陸軍少將 藤原 君	陸軍少將 藤原 君	陸軍少將 藤原 君
陸軍少將 藤原 君	陸軍少將 藤原 君	陸軍少將 藤原 君	陸軍少將 藤原 君	陸軍少將 藤原 君	陸軍少將 藤原 君
陸軍少將 藤原 君	陸軍少將 藤原 君	陸軍少將 藤原 君	陸軍少將 藤原 君	陸軍少將 藤原 君	陸軍少將 藤原 君
陸軍少將 藤原 君	陸軍少將 藤原 君	陸軍少將 藤原 君	陸軍少將 藤原 君	陸軍少將 藤原 君	陸軍少將 藤原 君
陸軍少將 藤原 君	陸軍少將 藤原 君	陸軍少將 藤原 君	陸軍少將 藤原 君	陸軍少將 藤原 君	陸軍少將 藤原 君
陸軍少將 藤原 君	陸軍少將 藤原 君	陸軍少將 藤原 君	陸軍少將 藤原 君	陸軍少將 藤原 君	陸軍少將 藤原 君
陸軍少將 藤原 君	陸軍少將 藤原 君	陸軍少將 藤原 君	陸軍少將 藤原 君	陸軍少將 藤原 君	陸軍少將 藤原 君
陸軍少將 藤原 君	陸軍少將 藤原 君	陸軍少將 藤原 君	陸軍少將 藤原 君	陸軍少將 藤原 君	陸軍少將 藤原 君
陸軍少將 藤原 君	陸軍少將 藤原 君	陸軍少將 藤原 君	陸軍少將 藤原 君	陸軍少將 藤原 君	陸軍少將 藤原 君
陸軍少將 藤原 君	陸軍少將 藤原 君	陸軍少將 藤原 君	陸軍少將 藤原 君	陸軍少將 藤原 君	陸軍少將 藤原 君

陸達第三十六號

陸軍禮式附錄左ノ通改正ス

大正二年八月十五日

陸軍大臣 楠瀬幸彦

陸軍大臣 齋藤幸彦

大正二年八月十五日

陸軍部第六附録式ノ施行

附録第三十六號

陸軍禮式附録

第一章 觀兵式

第一節 通則

第一條 本章ニ於テ團隊長ト稱スルハ師團長、旅團長、聯隊長及獨立隊長ヲ謂フ

第二條 交通兵隊ニ對シテハ工兵隊、重砲兵隊中繫駕スルモノニ對シテハ野砲兵隊、繫駕セサルモノニ對シテハ步兵隊ノ爲ニ定メタル規定ヲ準用ス

第三條 閱兵式及分列式ノ整頓ハ常ニ右方ヲ基準トス

第四條 團隊附將校、特務曹長、見習士官、曹長及騎兵槍ヲ携フル者ヲ除ク輜重兵ハ肩刀シ歩兵、工兵ハ著劍ス但シ喇叭手ハ著劍スルコトナシ

第五條 觀閱者徒歩ナル時ハ將校ハ乘馬セサルヲ例トス但シ騎兵、野戰砲兵及輜重兵隊ノ將校ハ觀閱者ニ隨從スル者ヲ除クノ外乘馬スルモノトス

第六條 閱兵式ニ於テハ團隊ニ附屬セサル將官、佐官及陪觀ヲ許サレタル外國將校ニシテ乘馬ノ者ハ天皇又

工兵隊ノ小隊長ハ觀兵式ニ在リテハ徒歩スルモノトス

ハ觀閱者ニ扈從又ハ隨從スルコトヲ得

第七條 輜重輸卒ハ閱兵式ニノミ列セシムルモノトス行李、彈藥小隊、段列及縱列等ハ別命アルニ非サレハ觀兵式ニ列セサルヲ例トス

第八條 中隊以下ノ小部隊ニシテ大ナル部隊ト共ニ觀兵式ニ列スルトキハ之ヲ同兵種ノ聯隊若ハ大隊ニ編入シ其ノ隊長ノ指揮ヲ受ケシムルコトヲ得

第九條 分列式ニ於テハ山砲兵隊ハ常歩ヲ以テ其ノ他ハ速歩ヲ以テ之ヲ行フヲ例トス但シ時宜ニ依リ山砲兵隊ハ速歩ヲ以テ其ノ他ハ駟歩ヲ以テ之ヲ行フコト

ヲ得

第十條 分列中軍樂ヲ奏スル場合ニハ喇叭ヲ吹奏スル

コトナシ

第二節 閱兵式

第十一條 中閱兵式ニ於ケル諸兵整列ノ順序左ノ如シ

一、歩兵隊

二、工兵隊

三、交通兵隊

四、山砲兵隊

五、野砲兵隊

六、騎兵隊

七、輜重兵隊

教導隊ハ其ノ兵種ノ右翼、重砲兵隊中徒歩スルモノハ

山砲兵隊ノ右翼、繫駕シタルモノハ野砲兵隊ノ右翼、

騎砲兵隊ハ野砲兵隊ノ左翼ニ整列スルモノトス

第十二條 閱兵ノ隊形ハ各兵操典ニ依ル

隊形ノ如何ニ論ナク諸兵指揮官ハ最右翼ノ指揮官ヨリ

師團長ハ其ノ師團ノ最右翼ノ指揮官ヨリ各十六歩ニシ

テ第一線、各參謀長ハ其ノ長官ノ後方第二線、各幕僚

六 參謀長ニ後方第三線、其ノ他ノ司令部附將校ト同相
當官ハ幕僚ノ後方第四線ニ整列ス。軍樂隊ハ諸兵指揮官幕僚ノ後方適宜ノ所ニ整列ス。團隊ノ間隔ハ師團間ヲ六十四歩、旅團及異兵種間ヲ三十二歩トシ、右方團隊ノ左翼ヨリ左方團隊ノ右翼迄ヲ測ルモノトス。諸兵指揮官ハ前諸項ノ間隔ヲ適宜伸縮スルコトヲ得。第十三條 天皇式場ニ臨御アラムトスルトキハ其ノ稍前ニ於テ諸兵指揮官ハ「氣ヲ付ケ」ノ號音ヲ吹奏セシム。此ノ號音ニ依リ各團隊ハ第四條ノ動作ヲ爲ス。

天皇臨御アリタルトキハ諸兵指揮官ハ前進シテ車駕ヲ奉迎シ、軍樂隊及諸隊ノ喇叭手群ハ「君カ代」一回ヲ吹奏シ、各隊ハ敬禮ヲ行フ。

第十四條 觀閱者タル將官臨場ノ際ニ於ケル各團隊ノ動作ハ前條ニ準ス。但シ軍樂隊及喇叭手群ハ其ノ官職ニ應スル回数ニ從ヒ「海行カハ」ヲ吹奏スルモノトス。

第十五條 閱兵ヲ施行セララルトキ諸兵指揮官ハ前進シテ天皇ヲ奉迎シ、又ハ觀閱者ヲ迎ヘ、刀ノ禮ヲ行ヒ、當日出場ノ總人員將校以下何名ト唱フ以下同シヲ奏上、又ハ報告シ、天皇又ハ觀閱者ノ右方後ニ在リテ、閱兵ノ奉導若ハ誘導ヲ爲ス。

第十六條 天皇團隊ノ最右翼ニ到ラルルトキハ軍樂隊ハ「君カ代」三回ヲ奏ス
 天皇師團、旅團ノ右翼ニ到ラルルトキハ師團長、旅團長ハ前進シテ天皇ヲ奉迎シ刀ノ禮ヲ行フ
 天皇各聯隊獨立隊長ヲ含ム以下同シノ右翼約二十歩ノ所ニ到ラルルトキハ各隊ハ敬禮ヲ行ヒ聯隊長獨立隊長ヲ含ム以下同シハ直ニ前進シテ天皇ヲ奉迎シ刀ノ禮ヲ行ヒ該隊ノ出場人員ヲ奏上ス
 天皇各隊ヨリ約十五歩過キ去ラレタルトキハ敬禮ヲ止ム但シ甲隊喇叭手群ノ吹奏ハ乙隊喇叭手群ノ吹奏ヲ始ス

メタル時ニ止ムルモノトス
 團隊長ハ其ノ團隊ノ閱兵中諸兵指揮官ニ右側ニ於テ天皇ニ扈從ス
 第十七條 觀閱者タル將官ニ對スル各團隊ノ動作ハ前條ニ準ス但シ軍隊ノ敬禮ハ「頭右(左)」ノ號令ニ從ヒ目迎目送ヲ爲シ「直」ノ號令ニテ頭ヲ正面ニ復シ軍樂隊及喇叭手群ハ其ノ官職ニ應スル回数ニ從ヒ「海行カ」ヲ吹奏シ團隊長ノミ刀ノ禮ヲ行フモノトス
 第十八條 閱兵式ニ列シ分列ヲ爲ササル軍隊ハ諸兵指揮官ノ定ムル位置ニ整列スルモノトス

第三節 分列式

第十九條 分列式ニ於ケル諸兵ノ順序ハ閱兵式ニ同シ
 第二十條 分列ノ隊形ハ各兵操典ニ依ル
 諸兵指揮官ハ先頭ノ團隊長ヨリ前方三十二歩、師團長
 ハ其ノ師團先頭ノ團隊長ヨリ前方二十四歩、各參謀長
 ハ其ノ長官ノ左方半馬身後方、其ノ他ノ幕僚ハ諸兵指
 揮官若ハ師團長ノ後方四歩ニ於テ一列ニ位置ス
 軍樂隊ハ諸兵指揮官ノ前方二十四歩ニ位置ス
 各團隊ノ距離ハ師團間ヲ八十歩、旅團間ヲ六十四歩、

異兵種間ヲ四十歩トス但シ乘馬隊速歩ヲ用ウルトキハ
 徒歩隊ヨリ約四百歩、旅團又ハ聯隊ト異兵種間トヲ二
 百歩トシ駈歩ヲ用ウルトキハ之ヲ倍ス
 前項ノ距離ハ先行團隊ノ後尾ヨリ後續團隊ノ團隊長又
 ハ喇叭手群迄トス
 諸兵指揮官ハ前諸項ノ距離ヲ適宜伸縮スルコトヲ得
 第二十一條 閱兵終リタルトキハ諸兵指揮官ハ直ニ命
 令ヲ下シテ分列ノ隊形ヲ作ラシム
 各隊ハ適宜先頭部隊ニ距離ヲ縮メ分列ノ隊形ヲ作ル
 時宜ニ依リ閱兵終ル毎ニ各隊ヲシテ先頭部隊ニ距離ヲ

縮メ分列ノ隊形ヲ作ラシムルコト得
 第二十二條 諸兵指揮官ハ敬禮點ニ標兵附屬ヲ置カシメタル後分列行進ヲ命ス但シ命令ニ代ウルニ記號又ハ號音ヲ以テスルコトヲ得
 前進ノ命令ニ依リ軍樂隊又ハ先頭部隊ノ喇叭手群ハ前進ヲ起シ吹奏ヲ始メ各大隊長、中隊長ハ所定ノ距離ヲ得ルヲ待テ分列行進ノ號令ヲ下ス但シ行進中刀ヲ保持スル者ハ肩刀ヲ爲スモノトス
 第二十三條 諸兵指揮官ハ敬禮點ニ到リタル後固キ刀ノ禮ヲ行ハ敬禮點ヲ過キタル後直ニ肩刀ニ復シ驅歩

以テ右方ニ進出シ天皇又ハ觀閱者ノ右側後ニ到リ刀ヲ禮ヲ行ヒタル後肩刀ニ復シ分列式全ク終ル迄同所ニ位置ス
 第二十四條 軍樂隊又ハ喇叭手群ハ敬禮點第一標兵ヨリ約二十歩ノ所ニ到リタルトキハ左側面行進ヲ爲シ適當ノ距離ニ於テ右ニ方向ヲ換ヘ天皇又ハ觀閱者ニ正對シテ止リ連續吹奏ス
 喇叭ヲ吹奏スル分列式ニ於テ後續隊ノ喇叭手群ハ先行隊ノ後尾敬禮點ヲ通過シ終リタルトキ先行隊喇叭手群ノ節調ニ準シテ吹奏ヲ始ムヘシ此ノ場合ニ於テ先行隊

喇叭手群ハ直ニ吹奏ヲ止メ捷路ヲ經テ所屬隊ニ復歸ス
 軍樂ヲ奏スル分列式並騎兵、野戰砲兵及輜重兵隊ノ速
 歩若ハ駟歩ヲ以テ行フ分列式ニ於テハ喇叭手群ハ喇叭
 ヲ吹奏スルコトナク直行ス
第二十五條 各團隊長ハ敬禮點ニ到リタルトキハ刀ノ
 禮ヲ行ヒ敬禮點ヲ過キタルトキハ直ニ肩刀ニ復シ駟歩
 ヲ以テ右方ニ進出シ順次諸兵指揮官ノ右方ニ到リテ併
 列シ刀ノ禮ヲ行ヒタル後肩刀ニ復シ其ノ團隊通過シ終
 リタルトキハ再ヒ其ノ場ニ於テ刀ノ禮ヲ爲シ駟歩ヲ以

テ其ノ團隊ニ復歸スヘシ
 天皇ニ對シテハ聯隊長ハ側方ニ進出シタル後天皇ノ左
 側後ニ移リ聖旨ヲ俟タス諸兵指揮官ノ定ムル所ニ從ヒ
 大隊長又ハ中隊長ノ職爵氏名ヲ奏上スルモノトス
第二十六條 各團隊ハ敬禮點ニ到リタルトキ將校ハ刀
 ノ禮ヲ行ヒ禮旗亦敬禮シ各大隊、中隊ハ其ノ隊長ノ下
 ス「頭右」ノ號令ニテ天皇ニ注目ス其ノ隊ノ後尾敬禮點
 ヲ過キタルトキハ軍旗並將校ハ敬禮ヲ止メ大隊、中隊
 ハ「直レ」ノ號令ニテ頭ヲ正面ニ復ス但シ嚮導タル小隊
 長若ハ下士

野戰砲兵ニ在リテハ右翼
 砲車ノ車長及馭者ヲ含ム

モノトス
 觀閱者ニ對シ各隊ノ注目ハ前項ニ準ス但シ團隊長ハ劍
 刀ノ禮ヲ行フ
 第二十七條 分列全ク終リタルトキハ諸兵指揮官ハ天
 皇又ハ觀閱者ノ前面ニ到リ刀ノ禮ヲ爲シ聖旨又ハ命令
 ヲ俟ツ
 第二十八條 分列終リタルトキハ各隊ハ逐次諸兵指揮
 官ノ定ムル位置ニ到リ徒歩隊ハ距離ヲ縮メタル縱隊ヲ
 作リテ左向ヲ爲シ野戰砲兵隊ハ間隔ヲ開キ各中隊左方
 ニ砲車縱隊ヲ作リ騎兵隊ハ左ニ集團橫隊ヲ作リ輜重兵

隊ハ左ニ大隊縱隊ヲ作リ天皇ノ還御又ハ觀閱者ノ退場
 ニ對スル敬禮ノ準備ヲ爲ス但シ場合ニ依リ前記ノ隊形
 ヲ換ヘ若ハ分列終リタルトキハ各隊ハ直ニ退場スルコ
 トアルヘシ
 第二十九條 天皇還御ヲトキハ各團隊ハ臨御ノトキト
 同キノ敬禮ヲ行フヘシ但シ軍樂隊及喇叭手群ハ車駕場
 外ニ出ツル迄連續「君カ代」ヲ吹奏スヘシ
 觀閱者退場ノトキハ臨場ノトキト同一ノ敬禮ヲ行フヘ
 シ

第三十條 第一皇孫奉軍旗迎送式

第三十條 一軍旗奉迎ノ爲軍旗中隊ハ軍旗ヲ安置シタル
 家屋ノ前ニ到リ中隊縦隊 騎兵ニ在リテハ 作ルヘシ但シ
 喇叭手群ハ先頭小隊ノ右方 騎兵ニ在リテハ 中隊ノ右方ニ整列スルモノ
 トス出テ 各團別ハ 旗手ハ拔刀又ハ著劔シタル誘導ノ將校及護衛下士ト共
 ニ家屋内ニ入リテ軍旗ヲ迎フ 各團別ハ
 第三十一條 軍旗中隊ハ著劔又ハ拔刀シテ軍旗ノ出ツ
 ルヲ待チ旗手ハ軍旗ヲ捧持シ誘導ノ將校ハ其ノ左側
 前、護衛下士ハ旗手ノ兩側ニ從ヒ共ニ家屋ヲ出テ中隊
 ニ面シテ停止ス此ノ場合ニ於テ軍旗中隊ハ軍旗ニ對シ

テ敬禮ス其ノ方法ハ步兵ニ在リテハ著劔捧銃騎ニ兵在
 リテハ捧刀若ハ立槍シ將校ハ刀ノ禮ヲ行ヒ曹長ハ捧刀
 シ喇叭「足曳」一回ヲ吹奏スルモノトス 吹奏スルモノトス
 前項敬禮ノ後旗手ハ誘導將校及護衛下士ト共ニ中隊ノ
 前方四歩ニ移リタル後誘導ノ將校ハ中隊ノ定位ニ復シ
 喇叭手ハ軍旗ノ前方四歩ニ移リ中隊長ハ行進ヲ起サシ
 ム此ノ場合ニ於テ喇叭手ハ喇叭ヲ吹奏シ中隊長ハ軍旗
 ノ直前ニ在リテ行進ス但シ道路狹少ナルトキハ側面縦
 隊 騎ニ在リテハ 兵途上縦隊ト爲スコトヲ得 吹奏スルモノトス
 第三十二條 軍旗中隊ニシテ聯隊集合場ニ到リタルト

第二聯隊ヲ中央前約四十歩ノ所ニ於テ之ニ面シテ中隊
 繼隊ニ整列シ旗手ハ誘導ハ將校及護衛下士ト共ニ中隊
 ノ前約十歩ノ所ニ前進ス此場合ニ於テ聯隊長其ノ
 聯隊ヲシテ軍旗ニ對テ前條ト同一ノ敬禮ヲ爲シ軍
 旗ノ前ニ到リ力以テ禮ヲ行フ中列長ハ其並マテ
 敬禮終リタルトキ軍旗ハ聯隊ハ定位ニ就キ護衛下士ハ
 軍旗衛兵ト代リテ其ノ所屬中隊ニ復歸ス其ニ中列ハ
 軍旗定位ニ就キタル後軍旗中隊ハ喇叭ヲ吹奏スルコト
 ナク其ハ定位ニ就タル後ハ其ノ所屬中隊ニ復歸ス其ハ
 第三十三條 聯隊直接ニ軍旗ヲ安置シタル家屋ノ前ニ

整列スルトキハ軍旗中隊ヲ設クルコトナク旗手ニ於テ
 軍旗ヲ捧持シ誘導ノ將校及護衛下士ト共ニ家屋ヲ出テ
 前條ニ規定シタル位置ニ到リ聯隊ハ軍旗ニ對シ敬禮ヲ
 爲スモノトス

第三十四條 軍旗ノ奉送ハ奉迎ノトキト反對ノ順序ニ
 從ヒ同一ノ方法ヲ以テ之ヲ行フ

附 則

典ニ於テ觀兵式ノ隊形ヲ規定セラレサル兵種ニ在リ
 テハ其ノ隊形ハ舊陸軍禮式附録ニ依ル

(附圖)

新洲へ香典軍旗を掲げ、

天皇又へ觀閱者

敬禮第一標兵

八歩

八歩

敬禮點第一標兵分列發起點

行進方向

二百歩

二百歩

備考

一、本附圖ノ步數ハ適宜之ヲ伸縮スルコトヲ得
 二、標兵ハ徒歩兵又ハ乘馬兵ヲ用ウ但シ乘馬兵ヲ用井タルハ馬ノ頭ヲ以テ標線トス
 三、分列發起點及旋回點ニハ標兵ヲ置クコトヲ得

大正二年八月廿五日印
 大正二年九月一日發行

發行者

大日本兵書刊行會

印刷者

三浦良

印刷所

東京市日本橋區鐵砲町十三番地

發行所

陸海軍御用圖書發行所

大日本兵書刊行會

大正二年九月五日出版

電話番町特二六一六番
 振替口座二九九九番

—<目書行發館三二一>—

大正二年改正出版廣告

步兵教科書

紙部十三冊 紙部四冊
紙部一冊 紙部五冊
紙部一冊 紙部八冊

●本書ハ陸軍省御規定ノ步兵教科書即チ野外要務令
步兵操典、陸軍刑法、三式步兵銃及騎銃取扱法、陸
軍禮式、步兵機關銃操典、步兵懲罰令、十三冊ヲ
衛成勤務令、陸軍懲罰令、步兵諸君ハ勿論其他何
ルモノニシテ陸軍懲罰令、步兵諸君ハ勿論其他何
ガ武威ヲ以テ一躍世界第一等國ノ班ニ入タル所
本武威ヲ以テ一躍世界第一等國ノ班ニ入タル所
好讀物ト謂ザル可ラズ殊ニ繙讀輕便ニシテ製本亦
美ナリ

始

陸軍步兵軍曹竹田新吉

金沢中央通
古書元車
電話61-5835・47-0258

步兵ノ五
竹田新吉

終

